

# いもう 葦毛通信



ナガバノスミレサイシ

2024年4月22日  
豊橋市文化財センター  
豊橋市松葉町三丁目1  
TEL: 0532-56-6060

No. 152

## 1、2023年度作業報告－2

### 1) A・H地点

下写真画面手前がA地点、奥がH地点で、左が作業前の状況です。作業前には、画面中央にウラジロとコシダの群落があり、その奥は照葉樹の暗い森になっていました。

植生回復作業としては、ヤマモモや一部の木を残して、多くの木を皆伐に近い状態まで伐採しました。これから1～2年で奥の森の木を伐り、一段落したら重機を使って伐根する予定です。現在は、木の伐採のみですが、すでに一部では水がしみ出して良好な湿地に再生できる部分が推定できるようになりました。今回木を伐った画面中央部は葦毛湿原ではミカワシオガマが最後まで残っていたところでした。ミカワシオガマは他の植物に寄生する植物だとされています。埋土種子からの復活を期待して、今回の作業は日照を確保することにとどめ、木の伐採のみで根や表土等の除去は行っていません。葦毛湿原ではミカワシオガマ復活に向けた最後の挑戦になると思います。



A・H地点作業前 (2023年9月20日)



A・H地点作業後 (2024年4月4日)



A地点作業後 (2024年4月4日)



A地点作業後 (2024年4月4日)



また、手前のA地点ではコシダやウラジロの根、ミズゴケを除去した実験区を設置しました（前頁下写真）。ここはヒメミミカキグサが自生していましたが、地表面を水が流れなくなり、泥が溜まってヒメミミカキグサが発芽しなくなっていました。ミズゴケや根の層を除去することにより、一部では下層の白色粘質土が地表面に現れるようになり、良好な湿地に戻りました。ヒメミミカキグサが復活するのではないかと予想しています。

## 2) I・N地点

I地点とN地点の間を通る木道沿いにはホソバリンドウがあります。これまでも人工授粉を行ってきましたが、新たな個体の発芽が少なく、発芽してもうまく成長せずに消えてしまっていました。そこで、今回の作業で、ホソバリンドウがあるところは木の枝で囲み、その周りの部分にあるイヌノハナヒゲやヌマガヤを根から除去する実験区を設置しました。木道の西側（画面左側）がI地点、東側（画面右側）がN地点になります。

I地点では3か所でホソバリンドウが確認でき、N地点では1か所が確認できています。また、湿原内で離れて分布していた他の3か所のホソバリンドウは消えてしまいました。葦毛湿原ではホソバリンドウは絶滅寸前になっています。ホソバリンドウは発芽して成長できる環境に特殊な条件があるのかもしれませんが。



I 地点作業前（南から 2024 年 1 月 11 日）



I 地点作業後（南東から 2024 年 4 月 4 日）



N 地点作業後（2024 年 4 月 4 日）



I 地点中央北作業後（2024 年 4 月 4 日）

上写真左はN地点の状況で、四角く枝で囲ってあるのがホソバリンドウの自生地点です。右はI地点中央の北側にあるトキソウの自生部分で、発芽を促進するために木道沿いの注意看板の右側を約3×5m程度の範囲（上右写真画面中央）でヌマガヤを除草しまし



た。日照が確保され、トキソウやヤマラッキョウの発芽が促進されるのではないかと予想しています。

### 3) D・E地点

D・E地点はノカンゾウをニホンジカから守るためにネットを設置したところで、昨年オオスズメバチが巣を作ったところです。下写真左は作業前の状況で、画面中央の木の下にオオスズメバチが巣を作りました。巣はネザサの根の中に入り、巣の下半分は豪雨の影響で水没していました。

今回の作業範囲は、下写真の木道右側で鹿よけネットとの間の部分です。イソノキやクロミノシゴリ等の木を残し、ネザサやコシダを根から除去して大半を裸地化しました。



D・E地点作業前（2023年9月20日）



D・E地点作業後（2024年4月4日）



D・E地点作業後（中央部西から）



D・E地点作業後（作業地全体北から）

コシダやネザサの根を除去すると大半はこぶし大の礫が目立つ裸地になりました。特に上右写真の画面奥が大きな礫が多く、水の流れが見えず、やや乾燥しているようです。画面下側は水分が多く湿生植物が発芽すると予想しています。画面奥は大きな礫が多く、やや乾燥気味で、この環境に適した植物が発芽すると予想しています。

## 2. 葦毛湿原の活動を全国に伝える情報発信

葦毛湿原での取り組みについては、これまで、三重県四日市市や岐阜県多治見市の文化財保護担当課の視察や、群馬県の保護団体から活動内容についての問い合わせ等がありました。また、保護団体等による葦毛湿原の視察は毎年のようにあり、さらに2021年に「日

本自然保護大賞 2021 選考委員特別賞」を受賞してから、他地域で活動されている団体等から多くの問い合わせが来るようになりました。

2023 年度は愛知県名古屋市と静岡県立森林公園から問合せがあり、葦毛湿原での活動説明と現地の湿地での植生回復作業の実地指導を行いました。これからも、葦毛湿原での取り組みについて、できる限り情報を発信していきたいと考えています。

### 1) 第 37 回東山再生フォーラム

東山再生フォーラムは、名古屋市が 2009 年から名古屋市東山動植物園の再生を目指して開催しているフォーラムで、今回は第 37 回目になります。今回の開催テーマは「どうする？東山湿地」で、2023 年 7 月 1 日に東山動植物園動物会館で開催されました。

愛知学院大学(現愛知教育大学)准教授の富田啓介氏による「東山地区の湿地・水辺を再生して地域に活かそう」という講演があり、私はパネリストとして「葦毛湿原の再生事業」と題した報告をしました。大規模植生回復作業の内容やボランティアの方々との関係や作業の進め方、東山地区の湿地再生に向けての事業の方向性等について話しました。

### 2) なごや環境大学

なごや環境大学は、「なごや環境大学」実行委員会が開催し、市民、市民団体、企業、教育機関、行政が一緒になって活動しているものです。「なごや水辺・湿地サポーター養成講座—実践編—」が開催され、第 2・7 回に座学と現地での作業を行ってきました。

第 2 回(2023 年 8 月 27 日)は座学で、「葦毛湿原の再生から東山の湿地を考える」と題して、葦毛湿原での取り組みの紹介と基本的な考え方である「土壌シードバンクの埋土種子を活用した湿地の再生」について、具体的な方法を説明し、東山地区の湿地再生に向けた事業の方向性等についての話をしてきました。第 7 回(2024 年 1 月 27 日)は東山公園内にある天白溪湿地で、湿地再生のために行う植生回復の具体的な作業方法について、葦毛湿原で使っているジョレン(発掘調査用)を持っていき実演してきました。

名古屋市の東部丘陵には、かつて里山だったところに東山公園と平和公園が設置されています。ここは「なごや東山の森」と称され、市民と行政が協働で 2004 年から森づくりが行われています。面積は 400ha もあり、多くの湧水湿地がありますが、その多くが葦毛湿原と同様に放置されて森林化しています。中心になって活動している NPO 法人「なごや東山の森づくりの会」の方々は葦毛湿原の植生回復作業を参考に、湿地再生に向けて準備されており、森林化していても良好な湿地へと再生されると確信しています。

### 3) 静岡県立森林公園

静岡県立森林公園は浜松市浜北区にあるアカマツを主体とした森林が広がる自然公園です。キャンプ場やスポーツ広場、木工体験館、ビジターセンター等が完備されています。森林公園内には葦毛湿原のような湧水湿地が数か所あり、観察路が整備されています。

2023 年 12 月 10 日にボランティアの会の研修・交流会「湿地を守るってどういうこと？」が開催され、午前中は葦毛湿原での活動や作業方法、森林公園内湿地再生への提言等の説明を行い、午後には現地の湿地で作業の進め方を確認してきました。具体的には、考古学の発掘調査で行っている試掘トレンチを応用した実験区の設置方法、実際に湿地で植物やその根の除去をどのように行うかを葦毛湿原で使っているジョレン(発掘調査用)を使って実演してきました。

なごや東山の森や静岡県立森林公園で活動されているボランティアの方々は大変熱心で、今後、葦毛湿原と同じ方法で植生回復作業が進めば森林化して衰退した湿地が再生されると確信しています。